

酪農試験場だより

No. 85



放牧風景（南那須育成牧場）

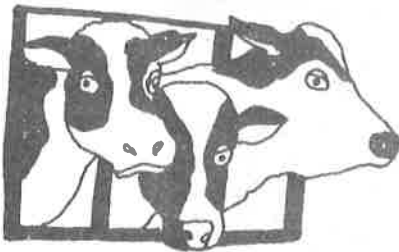
今月の内容

- 1 分娩前後の飼養管理技術
- 2 トウモロコシの雑草防除
- 3 ちょっと待ってその前に！～放牧前の飼養管理～

分娩前後の飼養管理技術

現在、あなたの牧場ではどの様に分娩前後の飼養管理を行っていますか？乳牛にとって分娩は、体の変化が一番大きい時期であり、この時期の飼養管理を適正に行うことが、酪農経営に大きく影響すると思われます。当场では、分娩前後の飼料給与法（栄養水準の理想的な飼養）に関して試験を行いましたので紹介します。

試験方法：2産以上のホルスタイン種5頭を供試し、分娩後10日目に養分要求量を100%充足する区（10区）と、同じく20日目に100%充足する区（20区）の2区を設定し、分娩前3週から分娩後12週まで試験を行いました。供試飼料は、分娩前3週から2週の間は、通常の乾乳期飼料を用い、分娩前2週から濃厚飼料の増給を行い、養分給与率120%とし分娩させました。分娩後は泌乳用の飼料に変え、設定した試験区の日数で最高給与量（予想される最高乳量時の養分要求量を充足できる量）になるように、分娩当日から増給を開始しました。なお、試験期間は全期間混合飼料の形態で飼養しました。



試験結果：飼料摂取量は急激に飼料増給した10区で食欲不振が起こったため20区の約2週間遅れで摂取量が増加し、エネルギー出納の調節（栄養水準の理想的な飼養）は実現できませんでした。また、飼料摂取量の向上が少ない10区に於いては、遊離脂肪酸濃度が分娩後1

から7週目まで適正值より高く、体脂肪の動員が顕著であったことが窺えました。

以上、簡単に試験結果を述べましたが、この試験では、エネルギー出納の調節を実現し、調査することは出来ませんでした。しかし、この試験での分娩前飼養方法は、1994年 日本飼養標準 乳牛にある、「リード飼養法」に準じた飼養方法であり、この日本飼養標準と異なる点は分娩後で、日本飼養標準が分娩後5日目まで乾乳期飼料を給与するとあるのに対し、分娩当日から泌乳期飼料を増給していった点であります。また、日本飼養標準と同等の分娩後飼養は、平成7年度の試験で行っており、牛体生理や乳質に影響が出なかったことから、分娩前飼養がこれらと同じ場合、分娩後25日前後を目安に増給するのであれば牛体に影響なく飼養できると思われました。

しかし、高泌乳牛が数多く飼養されるようになった現在、分娩前後のエネルギー出納が繁殖や、泌乳量の伸びに大きく影響していると考えられます。当场では今後、分娩前の飼養方法（増給期間や養分濃度）を改善して、分娩後に十分採食の出来るエネルギーバランスを適正に飼養できる飼養方法を確立していきたいと考えています。

（飼養技術部 阿久津 充）

トウモロコシの雑草防除

◇◇◆◆雑草防除は、収量確保の第一歩◆◆◇◇

飼料作物栽培は、天候と家畜管理の合間をぬっての作業のため、なかなか計画通りにはいかないものです。特に、今年のトウモロコシの播種時期は雨が多く、夏は高温であったため、除草剤の散布タイミングを逃してしまい、雑草が繁茂してしまった圃場が見受けられました。そこで、今回はこれから作付けするトウモロコシの雑草防除のポイントについて、整理しておきたいと思います。

1. 雑草防除体系

表 代表的なトウモロコシの除草剤

使用時期	対象雑草	薬剤名	使用量(10a)	散布水量
播種後～発芽前	イネ科雑草	ラッソー乳剤	200～400ml	70～100ℓ
	広葉雑草	ゲザプリム水和剤	100～200g	//
	イネ科・広葉雑草	ゲザノフロアブル	200～400ml	//
		クリアーソ乳剤	600～800ml	//
		エトップ乳剤	500～600ml	//
	ゲザプリムフロアブル + ラッソー乳剤	150～200ml + 200～300ml	//	
生育期 (雑草3～6葉期)	広葉雑草	バサグラン液剤	100～150ml	//
(トウモロコシ3～5葉期)	イネ科・広葉雑草	ワンホープ乳剤	100～150ml	//

これらの除草剤の除草効果を高めるために、次のような点に注意しましょう。

[播種後～発芽前処理]の注意点

- ①必ず雑草の発生前に散布する。(雑草が発生してからでは、効果が劣ります。)
- ②土壌が乾燥した状態では、散布水量を増やします。(100～150ℓ/10a程度)
- ③薬剤散布後は、トラクターなどで圃場に入らない。(薬剤の層が壊れる。)

[生育期処理]の注意点

- ①降雨6時間以内の散布は避ける。(薬害を起こす危険性があります。)
- ②できるだけ雑草の小さいうちに散布する。

2. イチビ及びキハマスゲの防除体系

通常の播種後～発芽前処理を行った後、イチビの3～6葉期にゲザプリムフロアブル200ml/10aとバサグラン液剤150ml/10aの混合散布が効果があります。キハマスゲも通常の播種後処理を行った後、キハマスゲが20cm程度になった時点で、バサグラン液剤750ml/10aの散布で効果が期待できます。(草地飼料部 星 一好)

ちょっと待ってその前に！

～放牧前の飼養管理～



そろそろ放牧の季節がやってきます。

放牧は、手間がかからず丈夫な牛を安く育成できる優れた方法ですが、その効果が十分発揮されるかどうかは、入牧前の飼養管理に掛かっているといっても過言ではありません。

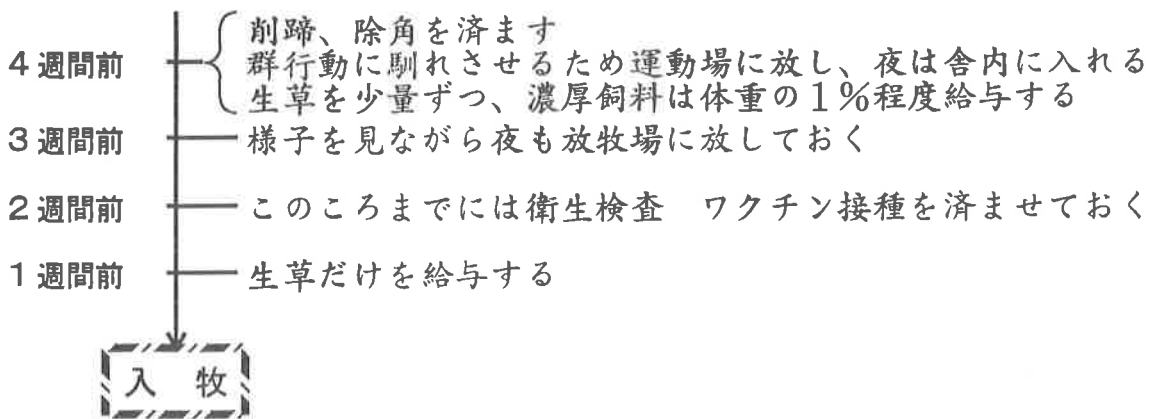
入牧による環境の変化は、子牛にとってかなりのストレスです。暖かな牛舎から野原に放り出され、青草だけを食べてゆかねばなりません。順応できずに病気に罹ったり発育停

滞を引き起こしても不思議ではないでしょう。

ですから、あらかじめ放牧場に似た環境に馴れさせておく必要があるのです。これを放牧馴致（じゅんち）といいます。

また、放牧は集団生活です。皮膚病の治療などは最低のマナーですから必ず実施してください。

※ 入牧までのスケジュール



(南那須育成牧場 沼野井憲一)

酪農試験場だより 栃木県酪農試験場

No 8 5

〒329-2747西那須野町千本松298

平成10年3月1日

電話0287-36-0280